

全国から集まった地方整備局職員が河道閉塞調査手法を学ぶ ～国土技術政策総合研究所の併任プログラムを実施～

～大規模土砂災害対策技術センター・紀伊山系砂防事務所～

国交省職員を対象として砂防のスペシャリストを育成することを目的とした「国土技術政策総合研究所併任プログラム」を、大規模土砂災害対策技術センターと紀伊山系砂防事務所にて実施しました。全国の地方整備局から職員（砂防関係8名、道路関係2名※）が集まり、国土技術政策総合研究所職員の指導のもと、TEC-FORCE派遣時を想定した溪流調査訓練や、ヘリコプターから河道閉塞（天然ダム）を計測する訓練を実施しました。 ※災害時に砂防・道路の職員が一体となり、迅速な対応ができるよう、道路関係者も参加しています。



実施場所・実施期間

- 令和3年10月19日（火）：大規模土砂災害対策技術センターにて研究成果を説明、和歌山県土砂災害啓発センターにて啓発活動について聴講・見学、那智川流域鳴子谷川にて溪流調査訓練
奈良県十津川村長殿地区（深層崩壊地）にて排水トンネル工法を視察
- 令和3年10月20日（水）：奈良県五條市赤谷地区（深層崩壊地）にてヘリコプターによる河道閉塞（天然ダム）の測量訓練、「SMART SABO」※の練習、赤谷地区の自動化施工・無人化施工を視察
- （※「SMART SABO」とは土砂災害直後の点検結果等をモバイル端末で整理・帳簿作成をできるツールです）



和歌山県の土砂災害啓発センターにて、啓発活動の説明と土石流発生模型を用いた実験の実演

和歌山県の土砂災害啓発センター職員から、啓発センターの啓発活動（防災教育、研修）について説明いただきました。県外からの研修受け入れの増加や、観光客など一般の方の来館も多く積極的な啓発活動を行っていることの説明とともに、来館者に砂防堰堤の効果を理解してもらうための土石流発生模型を用いた実験を実演いただきました。



那智川流域鳴子谷川にて、溪流調査訓練を実施しました。



赤谷地区では無人化施工による土砂の敷き均しの実演、自動化施工によるブロック据え付け技術の解説をしました。



レーザー距離計で河道閉塞部を計測

計測点座標が端末に表示

赤谷地区の河道閉塞部を対象として、土砂災害緊急情報の通知に必要な決壊氾濫シミュレーションに用いる河道閉塞の大きさを計測する訓練を実施しました。



長殿地区では残存する湛水池の解消を目的とした排水トンネル整備について、施工中のトンネル内を案内しました。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局 大規模土砂災害対策技術センター

〒649-5302 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町市野々3027-6 TEL：0735-55-0820

